



題字は松井岳洋筆

No. 441
平成29年11月

発行
(公社) 日本詩吟学院 認可

碩心会

発行者 上村岳章

編集者 伊藤岳光

神奈川県三浦郡葉山町堀内 1285

Tel/Fax.046-875-3397

URL <http://sekishin.holy.jp>

すべての出逢いに感謝

広報部長 伊藤 岳光



機関誌「碩心」の編集作業に携わり11年弱、この間は「知りたがり」になった気がします。広報活動における幾多の素晴らしい出逢い、更に色々な場所へ出かける。新しいことを知る喜びがたまたまなく楽しく、新鮮で、詩吟を趣味として選ぶ本当に良かったと改めて思います。

私と詩吟との出逢い、それは52年ほど前、親戚が集う食事会でのこと、高校生の従兄弟が詩吟クラブで稽古したと言い武田信玄の「風林火山」を大きな声で堂々と詠じました。「疾きこと風の如く 静かなること林の如し 侵略すること火の如く 動かざること山の如し」初めて聞いた独特の旋律に圧倒され感動したのを今でも鮮明に覚えています。

それから34年後、両親の影響で碩心会に入会、詩舞で「武田節」を舞う事になり歌詞の中の漢

詩「疾如風徐如林 掠如火不動如山」を調べてみたところ、これは武田信玄が戦をする上で、風のように速く進み、林のように息をひそめて待機し、火の燃えさかる如く攻撃し、山のようにどっしりと落ち着くという戦術で兵の用い方を説いたもので、中国の孫子の兵法書の中からとつたものだという事が分かりました。

今夏、「信玄公宝物館」(山梨県甲州市)を訪れる機会に恵まれた。今を遡ることおよそ500年の昔、諸国に群雄割拠した戦国時代。甲斐の国の盟主として武勇を誇り、勇名を轟かせた武田信玄。武田軍の常に陣頭に押し立てられた軍旗に記された言葉だった。それは中国の兵書「孫氏軍争編」の言葉。一般に「風林火山の旗」と呼ばれている。信玄の領国経営の理念は「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、あだは敵なり」。国全体が城であり、人の和こそ山河の厳しさに匹敵するのだと信じていました。

「和を以て貴しと為す」(聖徳太子)
常に初心を忘れることなく、楽しさも厳しさも共有し会の発展に繋げていきたい。

平成29年度功勞者表彰

功勞者の部 行谷隆岳

昇伝段位認許

(平成29年7月1日付)

皆伝(1名)

87 坂上城岳

九段(1名)

76 上村炎岳

(平成29年10月1日付)

少年2名

187 重田すず(小8級) 188 永井翔太(小4級)

初段(10名)

185 吉田朋之進 186 澤木翔太 192 井上君枝

193 大門鋼作 194 村上日出子 195 宇治田光代

197 林 初代 198 佐野司郎 199 翁川良一

201 川添富子

二段(12名)

175 鈴木 宏 176 守屋允子 177 徳永邦弘

178 徳永幸子 179 池田和子 180 吉田昌之

181 鍋田敏一 183 福原トキ子 184 桑原昭太郎

189 鈴木義崇 190 安西信行 191 野津英夫

初伝(6名)

168 北村淑泉 169 日比廣泉 171 田中友泉

172 八木澤臣泉 173 小峰昭泉 174 小峰桜泉

三段(5名)

159 増田悦泉	163 吉村健泉	165 山藤寛泉
166 平泉廣泉	167 藏重千泉	
四段(4名)		
154 山崎清泉	156 岩田維泉	157 遠藤千泉
158 後藤節泉		
五段(5名)		
135 馬場奎山	136 中島千山	137 井上裕山
139 弦巻康山	140 鈴木実山	
奥伝(2名)		
118 野村耀風	119 神山凱風	
七段(4名)		
107 森 祐風	108 森 晶風	109 照沼夏風
110 山下夕風		
八段(1名)		
100 植草眞風		
準師範(平成29年8月20日付)		
115 中山辰風	53 小泉岳貴	

行事予定

碩心会 初吟会

日時 1月20日(土) 開会10時15分

場所 葉山町福祉文化会館

皆伝会

日時 2月24日(土)

場所 葉山町福祉文化会館

春季審査会

日時 3月24日(土)

場所 葉山町福祉文化会館

秋季審査会

平成29年9月16日(土)

於 葉山町福祉文化会館大会議室

迷走台風18号の影響で雨模様の日となったが、審査会の会場内は受審する方々の緊張感が満ち溢れ、引き締まった雰囲気の中開始された。午前の部、受審者46名(欠席者4名) 午後の部の受審者12名。後日追試を受けた方2名。

受審された方々の感想 (5名)

◇初段 悠々支部 福原トキ子

二度目の昇段試験であり順番待ちまでは平常心を保てましたが、いざマイクの前に立つと審査の先生方々と参加者の視線に平常心を失ってしまい、練習同様に吟ずることが出来ませんでした。大勢の前に立ち独吟することの難しさを感じました。しかし、これまでの人生では人前で吟ずる事が無かったので良い経験が出来たことに感謝申し上げます。

◇初伝 渚支部 山藤寛泉

4回目だし、新初段を受審する友人もいるし、しつかりやらねば!と順番待ちの席に着き、柱の陰になった時自分の吟のお濠いを始めたなら二節めが出てこない。進行係さんの机上には名簿、左端の教本は遠くて見えない。名前を呼ばれた、エーイままよとマイクへ。吟じ終えたよう。まあ私の人生開き直りの連続だったなあと再認識した審査会であった。

◇三段 篁風支部 山崎清泉

受審票を出した瞬間から緊張が走り、何回受審をしても初心と同じで周りを見てもそのように感じられた。いつも教場で先生の指導を受けている時のように吟じればと思いつつも、いつも絶句する箇所を順番が来る直前まで確認し、マイクの前に立ち受審番号と氏名(雅号)を告げたら、先生の「どうぞ」の言葉はもう少し早めが良いと思えました。先生方の講評を守って今後の吟力向上に励みたいと思います。

◇奥伝 真澄支部 山下友風

午後からの受審に合うように、午前の用事を済ませ、静かな会場に入り時間を待つ…

その後規律正しく開始され、各々受審されました。先輩の方々の見事な吟が終わり、その方らしい味わいを聞かせて戴き感動いたしました。先生方のご指導のもと、継続と努力、声質等ありますが緊張したひと時でした。この素晴らしい審査会に参加していくためには、健康であり、脳を鍛え、そして社会参加が大切だと思いました。先生方有難うございました。

◇九段 瀨朗支部 島 光岳

今回の審査は、私にとって特別の意味を持っていた。半年程前から、急に詩吟ができなくなっていた。声が思うようにならない。情けなかった。もう人前で独吟はできないと思った。この審査に賭けてみようと思った。高かったが、最後まで自分らしく吟じられたと思う。外に出たら雨。この雨が全てを洗い流してくれるといいなと思いつつながら帰路についた。

久方ぶりの山形吟行会

企画副部長 村上遥風

10月25日台風一過の朝、総勢19人。東京駅へ向うも、途中約20分、車両停止のハプニングも何とか新幹線の発車時間に滑り込み、山形駅定刻到着。寒河江吟友会の出迎え、マイクロボスで移動。地元のをばを堪能、紅花資料館見学、奈良時代に開かれた慈恩寺を参拝。サクランボの木の家が立ち並ぶ道を登った所に、松井岳洋先生の記念碑あり、「吟魂、吟道をして、永遠の命あらしむ」と刻まれている。寒河江吟友会の仲間とともに、吟三題、声高らかに合吟、気持ちの良いひと時。ホテルへ。

夕刻より交歓吟詠会。両会長より、今後ともお付き合いを大事にしていきたいとの挨拶。双方から、合計10題の吟が披露され、最後に全員で、宇都宮岳徳先生による「寒河江吟友会と姉妹会を盟約す」を合吟。

2日目、赤レンガの美しい旧県庁舎の文翔館見学。道すがら、市民の芋煮会場となる河川敷を横目に見ながら山寺芭蕉記念館へ。芋煮定食の昼食後、歩いて、通称山寺の立石寺(りっしやくじ)へ。蔵王エコーラインを通って、海拔1500メートルのお釜へ。直径330メートルの火口湖の姿を、目の前にくっきりと確認、一路、山形駅へ、新幹線定刻出発、東京駅ホームで解団式。上村団長の挨拶をもって、旅を締めくくった。



「吟魂、吟道をして、永遠の命あらしむ」の碑の前で

碩心会 「育成研修会」について

副会長・教務部長 高橋岳之

若き指導者クラスの吟技の向上を目的として、各支部の指導者の先生方に推薦を依頼し、16名で4月より講義を開始。

期間は2年間を目標とし、講師の先生は内山顧問のお口添えで総本部常務理事、郡山岳昌先生と「碩心会夏季吟道講座」で講師をして頂いた半間岳雨先生にお願ひしました。

基本である吟法、吟技の向上を目指して、漢詩、和歌、俳諧歌を勉強。30年1月より近代詩俳句も加えて勉強していく予定。

教務部として、次世代指導者として成長して行く為のお手伝いが出来ればと思います。

第24回全国優秀吟者吟道大会

平成29年9月24日(日)メルパルク東京に於いて標記大会が開催された。会場は北海道から九州まで全国から参集した吟友1200余名で満席、出吟者の緊張した表情と応援の熱気が溢れる。今大会より漢詩、和歌の独吟に加えて3名1組による律詩連吟の部が復活、全国10地区の予選を勝ち抜いてきた代表が栄冠を競った。



我が碩心会の菊池捷岳、菊池世岳、亀井水山さんは神静地区の「連吟の部」で栄えある優勝を遂げ、待望久しかった全国への道を拓いた。碩心会にとっては平成17年の男性連吟(植村、行谷、鴨原)以来の快挙。出場17組、

全国の頂点を目指し指導者と一体となつて練習を積まれたと聞く。磨かれた吟技、吟声で「彰義隊」を堂々と詠いあげ、満場の喝采を浴びた。審査結果―惜しく入賞を逸す。しかし、晴れの舞台、碩心会に与えた刺戟は計り知れない。「復活した連吟はやや準備不足の感があったが今後、大いに期待するところがある」と講評。おほざらにそびえて見ゆるたかねにも

登ればのぼる道はありけり

大山岳莊理事長が謹詠された明治天皇御製―究めん道の御訓えと胸に刻む。 常盤仙山

尚齒会に参加して

酔吟支部 鈴木康風

初めて参加の第八回尚齒会神奈川吟詠大会。はて尚齒会つてよく耳にするけれども何なのだろうとパソコンを開いてみた。そうすると尚齒会とは老人を尊敬し、その高齢を祝うために催す宴。もとは中国の習慣で唐の白楽天が最初。「しようしえ」と読むと出ていた。「齒」は年齢、「尚」は尊ぶを意味するようだ。

大会実行委員長の内山岳青先生がご挨拶の中で「健康寿命もさることながら活動年齢を長くしよう。それには良い趣味を持つこと。まさに詩吟がぴったり当てはまる」と話された。「尚齒」の真の裏が取れた気がした。

プログラムには90歳以上の部があり、男女6人ずつ12名の方が吟詠された。90歳以上とは思えない精気朗々とした声、艶なる声・凄いなと思った。まさにこれぞ尚齒会。ただ惜しむらくはこんなによい吟をご披露してくださるのならば具体的に何歳と明記した方がよかつたと思った。ご本人も誇りに思うだろうし、我々にも更なる励み加わるだろう。幼児期の1〜2歳の差の動きにかなりの開きがあるように高齢者の1〜2歳差も同じではないのだろうか。

伝・段位の取得もさることながらあそこまで生きたいという希望を与えてくれるだろうと思つた。いずれにせよ活気に溢れた第八回尚齒会神奈川吟詠大会でした。

第24回神奈川岳風連合会吟詠大会

心配された台風18号の影響もなく、「手頃な陽気」のもと、9月20日、藤沢市民会館にて第24回神奈川岳風連合会吟詠大会が開催された。1380席を有する大ホールに入ると、江の島弁天橋がまだ架かっていない頃の江の島を絵柄とした緞帳が目に入ってきた。藤沢宿は江の島詣での起点であつた。

桑波田岳誠会長より、会員増強に努め、吟界を若返らせ活気を取り戻そうとの呼びかけがあり、来賓の神戸岳栄先生からは、会員の増やし方の一助として、長谷川岳聖元理事長の「吟は吟につかず、吟は人につく」という箴言が紹介された。吟により人格を磨き、それによって会員を増やして行こうとのことである。吟道義抄の「声は人格の響きなり」に通じるものなのであろうか。

碩心会の出吟は、神奈川誠吟会との合吟で、男性は「九月十三夜」を、女性は「春夜洛城聞笛」を吟じ、日頃の成果を披歴した。大会役員吟詠の合吟で、上村岳章会長が「神州」を、内山岳青顧問は「垓下歌」をそれぞれ吟じられた。連吟コンクールには22組の挑戦があつた。

例年と違った審査基準として、「マイクのヘッドを触ると失格」というのが付け加えられ、当日突然の発表のためか3組が残念な結果となつてしまつた。横浜岳風会、横南吟道会の両雄に正心吟道会が続いたが、碩心会の入賞は、来年以降に持ち越しとなつた。

構成吟「祖宗範木村岳風先生の作品集より」は、9月20日が木村岳風先生の生誕の日でもあり、タイミングの良い企画となつた。碩心会からは「異国の丘」の吟で高見岳湘さんが貢献された。横浜岳風会による「春井瀧山さんによる「春日村行」には、吟歴が浅いにもかかわらず、その吟力に会場中が圧倒された。

朗詠の一節、「朗吟す今古の先賢の賦 一辺千秋天地の心」を味わえた一日であつた。

酔吟支部 森 祐風

会員のうごき

- *入会 (9月1日付)
鈴木君栄 (紫陽花) 葉山町堀内
紹介者 吉田桜山
- *退会者
51 加藤健岳 (国際村) 153 中谷恵泉 (渚)
162 雲居隆栄 (真名瀬) 196 桜本 円 (滝の坂)

編集後記

碩心会のホームページを開いてみませんか！「創立80周年記念大会」は既に美しい画面と共に見ることが出来ます。8月に開催された「夏季吟道講座もアップされました。吟技向上の一助になれば幸いです。

「吟行会」に参加し、寒河江吟友会の方々と心温まる交流は、蔵王の美しい御釜と共に脳裏に焼き付いています。

広報部

29年10月現在	会員数
逗子地区	111名
葉山地区	81名
合計	192名